

令和 4 年 4 月 19 日現在

機関番号：17101

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K14207

研究課題名（和文）学習者の学びを促進させる教師の単元展開の実践的思考の研究

研究課題名（英文）Study of Practical Thinking of Teachers' Unit Development to Promote Learners' Learning

研究代表者

坂井 清隆（SAKAI, kiyokata）

福岡教育大学・大学院教育学研究科・准教授

研究者番号：50802849

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：D-00DAサイクルモデルに関して、特にD=学習デザインが、その後の00DAに与える影響を明らかにした。「単元の様相 解釈」の枠組みに関して、単元の構造的全体像を、【単元の流れ：計画と実際】【子供の主な言動】【教師の主な働きかけ】の観点に基づいて図化（=様相図）し、単元が生成・発展していく関係性の分析・検討（解釈）の枠組みとしてさらに改善した。単元の様相 解釈に関しては、「単元の様相 解釈」のための資料を精緻化した様相図として示すことができた。研究協力者と共に授業実践に対して「単元の様相 解釈」を行ったことが、その後の教師の単元展開の改善や授業改善の寄与していたことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、これまでブラックボックスであった単元展開の際の教師の実践的思考を、「単元の様相 解釈」（様相図の分析）を通して、Design（デザイン）Observe（観察）Orient（方向付け）Decide（決心）Act（実行）のプロセスにおいて、個々の学習者に柔軟に対応しつつ意思決定を行っていることを明示した。

また、ActionResearchのとして、大学教員の教育現場の教師に対するアドバイスや示唆について、学習者の特性と学習内容の関連性を捉えて学習内容の生成・発展する実際を示すことを通して、教員養成課程のカリキュラム改善に寄与することになった。

研究成果の概要（英文）：With respect to the D-00DA cycle model, the influence of D=learning design in particular on the subsequent 00DA was clarified. Regarding the "aspect-interpretation" framework, the structural overview of the unit was illustrated (= aspect diagram) based on the perspectives of [flow of the unit: planning and practice], [main words and actions of the children], and [main actions of the teacher], and further improved as a framework for analysis and examination (interpretation) of relationships in which the unit is generated and developed. The following is a summary of the results of the study. As for the aspect-interpretation of the unit, we were able to present the materials for "aspect-interpretation of the unit" as an elaborated aspect diagram. It became clear that the "Aspects-Interpretation" of the unit was a factor that contributed to the improvement of the teachers' subsequent development of the unit and the improvement of their teaching.

研究分野：教育方法学

キーワード：単元展開の様相 解釈 D-00DAサイクル 教師教育 ActionResearch 様相図

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

近年、学校教育の質的向上への要請はさらに強まっており、教師に求められる資質・能力が高度化、専門化している。特に、単元展開において継続的に改善を図っていく教師の実践的力は、学習者の主体的・協働的な学習を促進させていく上で必要不可欠である。若年教師が増え続ける昨今に至っては、学習者の実態に基づきながら単元を展開していく実践力の育成は喫急の課題である。しかし、教師自らが、単元の展開状況をどのように把握し、それをいかに単元展開に生かしているかについての詳細な検討は、十分には行われていない。

これまでのカリキュラム研究は、PDCA のマネジメントサイクルに基づいたカリキュラム改善を行う「教育課程経営」として固定観念化されたフレームワークをそのまま活用したものであり、年間指導計画・教科書・教材など、いわば教師の「都合」に重点を置いたものであった。この意味においては、単元レベルにおいても教師主導による形式的・画一的なカリキュラム展開となりがちであった。一方、新学習指導要領(2017)に明示された「カリキュラム・マネジメント」の理念を踏まえれば、子供目線を重視した現実の文脈で、必然性をもって知識・技能を獲得し、なおかつそれらを使いこなして他者との協働的に問題解決を行っていくような学習が重要視される。つまり、教師主体の「授業・単元設計」から学習者主体の「学習デザイン」に実質的に転換していく実践的力の向上が求められているのである。

このような動向の中、申請者は、特に実践的力形成が求められるこれからの教師教育に鑑みられた場合、単元展開のプロセスにおける教師の意思決定の詳細な考察が必要であると考えた。つまり、実践者がどのような意思決定に基づいて単元を展開したのかといった実質的なマネジメントの有り様を明らかにすることが、非常に重要な意味をもつのである。

#### 2. 研究の目的

本研究は、単元計画と実際の展開との差異に着目し、教師自ら開発した単元の意味や特徴、子供の関心事やこだわりを適切に捉えて単元展開に生かそうとする実践上の意思決定の姿を明らかにすることを目的とする。

#### 3. 研究の方法

D-00DA サイクルモデルの検討と単元展開に総合的に働く諸能力の析出及び「単元の様相解釈」の枠組みの提示

まず、D-00DA サイクルモデルに関しては、教育実践への援用方法や留意点について検討を行う。次に、単元を展開する際に総合的に働く諸能力の析出のために、実践者の「勘」や「コツ」といわれる暗黙知に焦点化して、仮説的に析出する。次に、「単元の様相解釈」の枠組みに関しては、単元の構造的全体像を、【単元の流れ：計画と実際】【子供の主な言動】【教師の主な働きかけ】の観点に基づいて図化(=様相)し、単元が生成・発展していく関係性の分析・検討(解釈)として設定する。

研究協力者による実践及び「単元の様相解釈」のための分析資料の作成

教育実践に関しては、申請者が校内研究講師を務める小学校に研究協力を依頼し、計画的に実践研究を進めていく。具体的には、小学校の実践者ととともに研究協力者と D-00DA サイクルを単元展開に位置付けた単元構想を行い、実践を積み上げていく。その際、「単元の様相解釈」の基となるエビデンスを作成するために、【単元の流れ：計画と実際】【子供の主な言動】【教師の主な働きかけ】の記録を詳細に取る。

の資料を基にした申請者・研究協力者との「単元の様相解釈」の実施、及び教師の実践的な D-00DA サイクルについての考察と検討

教師の単元展開の際の実践的思考の解明のために、で作成した資料を基に、「単元の様相解釈」を行う。で仮説的に析出した単元展開の諸能力を参考にして、単元の実際の展開に基づきながら、申請者が援用した D-00DA サイクル：D(学習デザイン)O(学習者の関心事やこだわりの把握)O(学習フィールドの設定)D(意思決定)A(柔軟な対応)を観点に、教師の実践的思考の様相について分析・検討を行う。その際、申請者と研究協力者が協働して、授業における学習者、学習者同士、教師の言動を解釈していくことによって間主観性を担保する。「単元の様相解釈」の際の研究協力者の発言に関しても、プロトコルデータとしてデータ化し、それをもとに、D-00DA サイクルにおける教師のレリバンスについても考察・検討を加えていく。このような考察・検討については、毎月の定例会を活用しながら効率的に進めるようにする。

#### 4. 研究成果

(概要)本研究では、これまでブラックボックスであった単元展開の際の教師の実践的思考を、「単元の様相解釈」(様相図の分析)を通して、Design(デザイン)Observe(観察)Orient(方向付け)Decide(決心)Act(実行)のプロセスにおいて、個々の学習者に柔軟に対応しつつ意思決定を行っていることを明示した。また、ActionResearch として、大学教員の教育現場の教師に対するアドバイスや助言について、学習者の特性と学習内容の関連性を捉えて学習内容の生成・発展する実際を通して、教員養成課程のカリキュラム改善にも示唆を得た。

(具体)

(1) D-00DA サイクルモデルの検討と教師の単元展開に総合的に働く諸能力の析出及び「単元の様相解釈」の枠組みの提示を行ったこと。

本研究においては、教育実践に 00DA ループ取り入れた場合、「ビジョンの設定」と「動機付

け・育成」,そして「意思決定」という3つの機能を発揮しながら,教師の単元展開における実践的力量を高める可能性があることがわかった。特に、ビジョンの設定には、「どんな成果(outcome)を出すか」という方針を固めること,学習者をどのように日々の教育実践に生かすかといった意思決定や洞察力、それに基づく構想力,その教師・その学習者ならではの学習内容を創り出す意識の重要性が明らかになった。

動機付け・育成では,教師は,学習者が当事者意識を持ち,目標を達成できる環境を構築することが求められる。それによって,学習内容は,子ども自らが決定し,自分が描く「学びの地図」をもちながら探究していくことが,学ぶ意義を見出し,内発的動機をもつことにつながる。ゆえに,学習者ひとり一人の価値観や強み,能力,現在の状態を考慮した上でモチベーションを向上させるコミュニケーションとり,相手の力量を正しく評価し,最高のパフォーマンスを発揮できるように支援していくことが必要であることがわかった。

意思決定では,過去の経験を振り返りつつリフレクションし自分の判断軸を更新させていくことが必要であることがわかった。上記とも関連するが,今後の人材育成に最も必要な役割として,学習やプロジェクトにかかわる学習者に「権限を委譲する」ことがある。学習者との信頼関係を構築した上で権限を委譲する(学習内容の決定は教師の専売特許でない)ことも,大きな意思決定のひとつであることが明らかになった。

(2) 研究協力者の実践に基づいて「単元の様相 解釈」を行うための資料を示したこと。

「単元の様相 解釈」の枠組みに関して,単元展開の構造的全体像を,【単元の流れ:計画と実際】【子供の主な言動】【教師の主な働きかけ】の観点に基づいて図化(=様相)し,単元が生成・発展していく関係性の分析・検討(解釈)の枠組みとして設定した。一年目の研究では試行版として【単元の流れ:計画と実際】【子供の主な言動】【教師の主な働きかけ】に沿って,時系列に展開過程を記録し,計画と実際のズレを可視化することを行った。二年目は,そのズレで発生した教師の実践的思考の内実を,実践者へのインタビューに基づいて分析・考察を行った。また,抽出児の単元を通した「育ち」についても分析を行った。三年目は,単元展開の際の大学教員の具体的な関わりについて,ActionResearchの観点から分析を行った。

本研究で開発した「様相図」によって,教師(実践者)いつ,どのようなきっかけで予定を変更したのか,変更した内容は何か,その結果どのような学習内容の発展があったのかを,可視化することができた。

(3) (2)の資料をもとにした教師の単元展開におけるD-00DAサイクルに関わる考察と検討を行い,教師の実践的思考の一端を明らかにしたこと。

実践分析の結果,本研究で対象としたK教諭は,教育内容としての教材研究にとどまらず,子ども理解,そしてK教師自身の単元観(単元展開に子どもの言動を組み込むこと)・子ども観(子どものこだわりを生かすことなど)の捉え直しを促進していったことが明らかになった。また,K教諭へのインタビューから,D-00DAサイクルの経験が,具体的な単元展開の改善の方途を見出すとともに社会科の単元展開だけでなく,他教科等への援用や子どもの言動を単元に組み込もうとする意識が芽生えていることがわかった。このことは,単元・授業・学習をデザインしていくことが,子ども=学習者の「経験」,さらには教師自身の実践知をデザインしていくことに他ならないことを意味していると考えられる。

実際の授業(単元)が,教師が計画した通り,また意図したままに展開することはあり得ず,もし,それがあるとすれば,子どもの反応などは置き去りにする,無かったことにする(もしくは感じない)という教師の自己都合で単線的,不可逆的に展開していることになる。子どもの真の学びをめざせば,K教諭の実践のように,子どもの反応(時として自発的な言動)や時数,外的な条件等に応じながら,即興かつ柔軟な判断・意思決定を絶えず行っていくことが求められる。それ故,1単位時間の授業の動きによって,その後の授業展開を修正していく,このような地道な積み重ねが,単元の学習内容が生成し発展していく契機になると考えられる。

課題としては,このような単元展開に関する実践的力量は一朝一夕に身につくものではなく,誰にでも適用可能な研修が存在するわけでもない。そうであるならば,多少時間や労力はかかるけれども,教師自身が,自らの実践を客観的に捉え,単元を柔軟かつ弾力的に展開していく方途を日常的に摸索するD-00DAサイクルを自ら駆動させていくような研修を積み重ねていく必要がある。他方,教師教育者としての大学教員は,このような研修やインフォーマルな働きかけの機会を継続的に提供していくことが求められる。このような機会を通して,自己の教育観が揺さぶられつつ,実践的な力量形成が着実に進められると考える。

本研究においては,研究者(申請者)の「傍目八目」としての観察を通して,子どもの言動を捉えつつ自覚的にK教諭に動的に関わるようにしていた。特に,教師教育者としての筆者の関わりは,特に子どもの観察を中心に行われていた。その結果,研究者が抽出児の発言を軸としながら単元を展開していくことを随時アドバイスしたことが,K教諭の能動的な単元展開への自信につながっていると考えられる。また,K教諭にとって苦手なタイプの子であった抽出児に対して,学習の中で生じた抽出児の個別的な経験に接近したことによって,さらに抽出児への理解を深めたことは重要な意味をもつことが明らかになった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 坂井清隆	4. 巻 70
2. 論文標題 教師の単元展開における実践的思考の研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福岡教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 185-195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坂井清隆	4. 巻 第11号
2. 論文標題 D-ODDループを取り入れた教育実践に関する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福岡教育大学教職大学院年報	6. 最初と最後の頁 73-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坂井清隆 青山之典 主税保徳	4. 巻 第12号
2. 論文標題 教職大学院学卒者対象科目「授業づくりの理論と質的研究の基礎」において 育成される資質・能力に関する考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）年報	6. 最初と最後の頁 43-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 坂井清隆
2. 発表標題 社会科単元展開における教師の実践的思考と子どもの学びに関する考察
3. 学会等名 教育方法学会第56回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂井清隆
2. 発表標題 教師の単元展開の実践的思考の研究
3. 学会等名 教師教育学会第29回研究大会(岡山大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂井清隆 岡田泰孝 梅澤真一 岡田了祐 水山光春
2. 発表標題 小学校社会科において市民の育成はいかに具現化されるか
3. 学会等名 全国社会科教育学会 第68回全国研究大会(島根大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂井清隆
2. 発表標題 社会科全国大会佐賀大会における赤松小の取り組みとその意味について
3. 学会等名 福岡社会科教育実践学会 第13回研究発表大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------